

韓國日本語學會
第30回 國際學術發表大會

Proceedings of the 30th General Meeting of the JLAK

September 20, 2014


코퍼스 일본어학의 현황과 전망

2014年 9月 20日(土)

가톨릭대학교 니콜스관

주최 : 한국일본어학회

주관 : 한국일본어학회 · 가톨릭대학교 일어일본문화전공

후원 : 일본국제교류기금  · 라이선스아카데미
(유령귀지아카데미) · 가톨릭대학교

韓國日本語學會

The Japanese Language Association of Korea



韓國日本語學會

The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會
第30回 國際學術發表大會

Proceedings of the 30th General Meeting of the JLAK

September 20, 2014


코퍼스 일본어학의 현황과 전망

2014年 9月 20日(土)

가톨릭대학교 니콜스관

주최 : 한국일본어학회

주관 : 한국일본어학회 · 가톨릭대학교 일어일본문화전공

후원 : 일본국제교류기금  · 가톨릭대학교 ·

라이센스아카데미 (유랭귀지아카데미)

韓國日本語學會

The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第30回 國際學術發表大會

▣日時：2014年 9月 20日(土)

▣場所：가톨릭대학교 니콜스관(N관)

<전 체 일 정>

일 정	내용 및 주제	장소
9:30-10:00	접 수	N관 3층
10:00-12:10	학술발표[오전] 포스터발표	N309호,N317호 N319호,N320호 N312호
12:10-13:20	점심 및 교류	교직원식당
13:20-13:40	개회식 및 총회	N301호
13:40-15:40	학술심포지엄 코어パス日本語学の現状と展望	N301호
15:40-16:00	휴식	N311호
16:00-18:10	기획초청발표 세계의 일본어학 연구동향 학술발표[오후]	N309호,N317호 N319호,N320호
18:10-20:00	교류회	

학술심포지엄(學術シンポジウム)

주제: 코퍼스日本語学の現状と展望

일시: 2014년 9월20(토) (13:40-15:40)

장소: 가톨릭대학교 니콜스관(N) 301호

사회: 강경완(국민대)

시간	발표자	제목
13:40 ~15:10	石井正彦 (大阪大)	コーパス日本語学の基礎 - 「言語的連結パターン」によるマルチレベル分析 -
	金愛蘭 (東京外大)	コーパスを利用した語彙研究 - 20世紀後半の通時的新聞コーパスを例に -
	東条佳奈 (大阪大)	Adobe Acrobatを用いた 自作コーパスと文法研究への活用
	孫榮奭 (제주대)	コーパスを利用した言語行動研究
15:10 ~15:40		질의응답

第30回 國際學術發表大會

제1발표장(第1会場) : N309호

좌장(座長) : 조남성(한밭대)

시간	발표자	발표제목	토론자	사회자
10:00 ~10:40	石塚ゆかり (青森大)	医療現場における 不満表明ストラテジーの日韓比較	峯崎知子 (홍익대) 정영미 (청주대)	김동규 (한국외대)
10:40 ~10:50	휴 식			
10:50 ~11:30	平野愛雅 (장안대)	就職面接自己PRにおける 「自己に対するほめ」の日・韓対照研究 - 「性格」を表すほめを中心に-	大田祥江 (성신여대) 김진아 (明治学院大)	김동규 (한국외대)
11:30 ~12:10	倉持香 (홍익대)	教養初級日本語クラスにおける内 省活動分析 -認知レベルとの違いに焦点をあてて-	齊藤明美 (한림대) 송승희 (열린사이버대)	
12:10 ~13:20	점심식사 및 교류			
13:20 ~13:40	개회식 및 총회(N301호)			
13:40 ~15:40	학술심포지엄: 코파스日本語学の現状と展望			
15:40 ~16:00	휴 식			
좌장(座長) : 김옥임(성신여대)				
기획초청발표: 세계의 일본어학 연구동향				
16:00 ~16:40	Lee, Duck-Young (오스트라 리아国立大)	韓日における対人関係と言語使用 : 指示表現を中心に	조영남 (고려대)	奈呉真理 (경희대)
16:40 ~17:20	何志明 (香港中文大)	日本語複合動詞のコロケーション -大規模コーパスの調査結果を通して-	石井奈保美 (동덕여대)	
17:20 ~17:30	휴 식			
17:30 ~18:10	志村順子 (한밭대)	JSL学習者のカタカナ語表記の 習得に関する調査報告 -三種類のテストを用いて-	田中洋子 (홍익대) 백이연 (고려대)	奈呉真理 (경희대)

제2발표장(第2会場) : N317호

좌장(座長) : 안병걸(남서울대)

시간	발표자	발표제목	토론자	사회자
10:00 ~10:40	韓娥凜 (大阪大)	政治談話における対称表現の日韓対照研究 -使用傾向および談話内における機能を中心に-	寺井妃呂美 (홍익대) 장희주 (한국외대)	김원미 (선문대)
10:40 ~10:50	휴 식			
10:50 ~11:30	趙恩英 (首都大東京)	新聞データから見られる “やっど”と“ようやく”の相違について -文学作品からの相違と比較して-	박재환 (경기대) 하재필 (한국외대)	김원미 (선문대)
11:30 ~12:10	深見兼孝 (広島大国際 センター)	日本語の「時を表す名詞+ニ」と 韓国語の「時を表す名詞+로」について	방윤희 (수원대) 안병걸 (남서울대)	
12:10 ~13:20	점심식사 및 교류			
13:20 ~13:40	개회식 및 총회(N301호)			
13:40 ~15:40	학술심포지엄: 코어パス日本語学の現状と展望			
15:40 ~16:00	휴 식			
좌장(座長) : 채경희(배화여대)				
기획초청발표: 세계의 일본어학 연구동향				
16:00 ~16:40	張威 (中国人民大)	結果可能表現の 理論的枠組みとその意味用法	성지현 (인천대)	정하준 (호남대)
16:40 ~17:20	이충규 (서원대)	예능 프로그램 자막에 관한 한일 대조언어학적 연구	송정식 (인하공전) 이준서 (성결대)	
17:20 ~17:30	휴 식			
17:30 ~18:10	王崗・方韻 (中国深セン大・ 香港中文大)	日本語と中国語の「若者ことば」にみる 語彙的特徴	김은희 (제주국제대) 市川雅恵 (인덕대)	이재강 (대전대)

제3발표장(第3会場) : N319호

좌장(座長) : 민광준(건국대)

시간	발표자	발표제목	토론자	사회자
10:00 ~10:40	손범기 (한국외대)	多治見方言の母音融合について -最適性理論に基づくミクロ的言語類型論-	이범석 (가톨릭대) 小倉純代 (목동고)	國生和美 (가톨릭대)
10:40 ~10:50	휴 식			
10:50 ~11:30	禹昭娟 (神戸市外大)	韓国人日本語学習者の 自発音声の句末の韻律的特徴	고혜정 (가톨릭관동대) 고유진 (상명대)	國生和美 (가톨릭대)
11:30 ~12:10	山川仁子 ·天野成昭 (愛知淑徳大)	日本語「ツ・ス・チュ・シュ」の明確な発 声に最適なハングル表記	이지수 (한국외대) 이경숙 (아주대)	
12:10 ~13:20	점심식사 및 교류			
13:20 ~13:40	개회식 및 총회(N301호)			
13:40 ~15:40	학술심포지엄: 코어パス日本語学の現状と展望			
15:40 ~16:00	휴 식			
좌장(座長) : 최은혁(인천대)				
기획초청발표: 세계의 일본어학 연구동향				
16:00 ~16:40	落合由治 (台湾淡江大)	言語単位をめぐる歴史的考察 -テキスト黎明期20世紀前半の日本の言 語思想をめぐる-	이자호 (경북대)	김양선 (영남대)
16:40 ~17:20	林慧君 (国立台湾大)	日本語における外来語系の類義接頭辞 -「ミニ」と「プチ」の場合-	김현주 (가톨릭관동대)	
17:20 ~17:30	휴 식			
17:30 ~18:10	石塚令子 (배화여대)	近代韓国語學習書に見られる服飾語彙	방극철 (순천대) 문창학 (한국외대)	김양선 (영남대)

제4발표장(第4会場) : N320호

좌장(座長) : 노명희(동국대)

시간	발표자	발표제목	토론자	사회자
10:00 ~10:40	坂口清香 (한국외대)	就職につなげる、学習者主体の作文授業 -自分に向き合い、自分を表現する授業の 実践報告-	강미선 (한양여대) 김의영 (덕성여대)	오경순 (세종대)
10:40 ~10:50	휴 식			
10:50 ~11:30	久屋愛実 (University of Oxford)	外来語の共時的分布パターンの 一般化に向けた予備的考察	최진희 (백석문화대) 노주현 (동국대)	오경순 (세종대)
11:30 ~12:10	大谷鉄平 (강릉원주대)	ことばとマーケティングとの相互影響性 -流行語における意味の推移を手掛かりとして-	곽은심 (중앙대) 윤영민 (연세대)	
12:10 ~13:20	점심식사 및 교류			
13:20 ~13:40	개회식 및 총회(N301호)			
13:40 ~15:40	학술심포지엄: 코어パス日本語学の現状と展望			
15:40 ~16:00	휴 식			
좌장(座長) : 홍민표(계명대)				
기획초청발표: 세계의 일본어학 연구동향				
16:00 ~16:40	米田正人 (国立国語 研究所)	60年におよぶ 山形県鶴岡市における共通語化の調査 -ランダム・サンプリング調査の結果から-	홍민표 (계명대)	김평강 (상명대)
16:40 ~17:20	全娟姝 (首都大東京)	韓国人留學生の プレゼンテーションに対する評価観点 -日本語教師と韓国人日本語学習者の比較-	若月祥子 (홍익대) 工藤恵利子 (방송대)	

[포스터발표(ポスター発表)]

제5발표장(第5会場) : N312호

시간	발표자	발표제목
	양민호 (성결대)	로마자 표기 이미지에 대한 사회언어학적 연구
	津田智史(日本学術振興会 特別研究員PD・国立国語 研究所)・椎名渉子(東北大) ・山下暁美(明海大)・井上史 雄(国立国語研究所)・高丸 圭一(宇都宮共大)・中西太 郎(明海大)	「もっとやさしい日本語」の提案 -災害時のよりよい情報共有のために-
10:40 ~13:20	김지희 (가톨릭대)	경양어II로서의 「~になります」와 「-세요」
(12:10 ~12:50 휴식)	持田祐美子 (평택대)	日本語文化における配慮行動の諸相
	신은진 (명지대)	「教養日本語」授業活動改善のための一考察 -中国人留学生参与による教授ストラテジーの再考-
	정수미 (대전대)	初級日本語教材における文節アクセントについて

目次

학술심포지엄(學術シンポジウム)

回会場：니콜스관(N) 301호

コーパス日本語学の基礎

- －「言語的連結パターン」によるマルチレベル分析－…………… 1
石井正彦(大阪大)

コーパスを利用した語彙研究

- －20世紀後半の通時的新聞コーパスを例に－…………… 8
金愛蘭(東京外大)

Adobe Acrobatを用いた自作コーパスと

- 文法研究への活用…………… 15
東条佳奈(大阪大)

- コーパスを利用した言語行動研究…………… 23
孫榮奭(제주대)

學術發表會：니콜스관

회제1발표장(第1会場)：N309호

- ①医療現場における不満表明ストラテジーの日韓比較 33
石塚ゆかり(青森大)
- ②就職面接自己PRにおける「自己に対するほめ」の日・韓対照研究
- 「性格」を表すほめを中心に- 40
平野愛雅(장안대)
- ③教養初級日本語クラスにおける内省活動分析
- 認知レベルとの違いに焦点をあてて- 47
倉持香(홍익대)
- ④韓日における対人関係と言語使用：指示表現を中心に 54
Lee, Duck-Young (オーストラリア国立大)
- ⑤日本語複合動詞のコロケーション
- 大規模コーパスの調査結果を通して- 61
何志明(香港中文大)
- ⑥JSL学習者のカタカナ語表記の習得に関する調査報告
- 三種類のテストを用いて- 67
志村順子(한밭대)

회제2발표장(第2会場)：N317호

- ①政治談話における対称表現の日韓対照研究
- 使用傾向および談話内における機能を中心に- 72
韓娥凜(大阪大)
- ②新聞データから見られる“やっど”と“ようやく”の相違について
- 文学作品からの相違と比較して- 79
趙恩英(首都大東京)
- ③日本語の「時を表す名詞+ニ」と韓国語の
「時を表す名詞+로」について 86
深見兼孝(広島大国際センター)

④結果可能表現の理論的枠組みとその意味用法	92
	張威(中国人民大)
⑤예능 프로그램 자막에 관한한일 대조언어학적 연구	99
	이충규(서원대)
⑥日本語と中国語の「若者ことば」にみる語彙的特徴	106
	王崗・方韻(中国深セン大・香港中文大)

回제3발표장(第3会場) : N319호

①多治見方言の母音融合について	
-最適性理論に基づくミクロ的言語類型論-	108
	손범기(한국외대)
②韓国人日本語学習者の自発音声の句末の韻律的特徴	114
	禹昭娟(神戸市外大)
③日本語「ツ・ス・チュ・シュ」の 明確な発声に最適なハングル表記	121
	山川仁子・天野成昭(愛知淑徳大)
④言語単位をめぐる歴史的考察	
-テキスト黎明期20世紀前半の日本の言語思想をめぐって-	128
	落合由治(台湾淡江大)
⑤日本語における外来語系の類義接頭辞	
-「ミニ」と「プチ」の場合-	136
	林慧君(国立台湾大)
⑥近代韓国語学習書に見られる服飾語彙	142
	石塚令子(배화여대)

국제4발표장(第4会場) : N320호

①就職につなげる、学習者主体の作文授業 -自分に向き合い、自分を表現する授業の実践報告-	149
	坂口清香(한국외대)
②外来語の共時的分布パターンの一般化に向けた予備的考察	156
	久屋愛実(University of Oxford)
③ことばとマーケティングとの相互影響性 -流行語における意味の推移を手掛かりとして-	166
	大谷鉄平(강릉원주대)
④60年におよぶ山形県鶴岡市における共通語化の調査 -ランダム・サンプリング調査の結果から-	172
	米田正人(国立国語研究所)
⑤韓国人留学生のプレゼンテーションに対する評価観点 -日本語教師と韓国人日本語学習者の比較-	179
	全娟姝(首都大東京)

[포스터발표]

회제5발표장(第5会場) : N312호

- ① 로마자 표기 이미지에 대한 사회언어학적 연구 189
양민호(성결대)
- ② 「もっとやさしい日本語」の提案
-災害時のよりよい情報共有のために- 196
津田智史(日本学術振興会特別研究員PD·国立国語研究所)·椎名渉子(東北大)·山下
暁美(明海大)·井上史雄(国立国語研究所)·高丸圭一(宇都宮共大)·中西太郎(明海大)
- ③ 겸양어 Ⅱ로서 의 「~になります」와 ‘-세요’ 201
김지희(가톨릭대)
- ④ 日本語文化における配慮行動の諸相 208
持田祐美子(평택대)
- ⑤ 「教養日本語」授業活動改善のための一考察
-中国人留学生参与による教授ストラテジーの再考- 213
신은진(명지대)
- ⑥ 初級日本語教材における文節アクセントについて 217
정수미(대전대)

日本語複合動詞のコロケーション

大規模コーパスの調査結果を通して

何志明(香港中文大学)

1. はじめに

日本語の複合動詞は、学習者にとって習得が難しい項目の1つであると言われており、複合動詞の使い方がわからないことがその原因の一つとされている。複合動詞は動詞、形容詞、名詞など他の品詞と同様、意味だけでなく、共起する語彙や助詞の使い方、いわゆるコロケーションも理解しておかなければ使いこなすことができないとは言えない。例えば、何(2012:275)は、「取り調べる」の場合、単純動詞(または単独動詞)の「調べる」と違って、一緒に共起できる目的語は「辞書」や「情報」のような「物」ではなく、「容疑者」や「犯人」のように「罪を犯した(または犯したと疑われる)人」でなければならないと指摘している。さらに、何(2012:275)では、「将来、複合動詞の辞書を作成する際、複合動詞の意味と使い方をはじめ、関連語彙と共起する助詞の使い方も学習者にとって重要な情報になる。」としている。そこで、本研究では、複合動詞のコロケーションに注目し、コーパスのデータを用いて、日本語母語話者によく使用されている複合動詞を考察する。

2. 先行研究

砂川(2010:106)は、コーパスは、コロケーションや類義語といった語法研究を大きく進展させる力強い武器であると述べている。コーパスによって、複合動詞そのものの使い方だけでなく、その関連語彙の知識も同時に学習者に紹介することが可能になる。松田(2004:2)では、「複合動詞の結合条件」、「単純動詞と複合動詞の使い分け」、「習得方法」の3点が学習者にとって習得の困難点であると述べている。何(2012)では、複合動詞導入の優先順位を提案するために、BCCWJモニター公開データ2009年度版及び現在市販されている中上級日本語教科書6冊を利用して、複合動詞の出現頻度の調査を実施した。しかし、調査対象となったデータの量に制限があったため、今後も継続調査を行う必要がある。

3. 本研究の目的

本研究では、複合動詞のコロケーションを、現代の言語資料である大規模コーパ

スを通して考察する。

4. 研究方法

本研究は、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所が開発した現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)の「中納言」を利用し、現代日本語の複合動詞の使用状況を明らかにする。石井(2007)では、複合動詞の数は約2,500語であると述べているが、本研究ではその約2,500語の複合動詞をコーパス「中納言」で調査した結果、出現頻度の高かったものをリストアップした。検索の方法は何(2014)に準ずる。

例：「思い出す」を検索する場合

- ①「中納言」の検索画面に入る。
- ②「短単位検索」を選択。
- ③「語彙素」を選択
- ④「思い出す」を漢字仮名交じりで入力。
- ⑤文中の区切り記号を選択(→なし)。
- ⑥前後文脈の数を選択(→「20」を選択)。
- ⑦検索対象(固定長・可変長・両方)を選択(→「固定長」を選択^注)。

【列の表示】(⑧～⑩の場合、下線のあるものは本研究で選択された項である)

⑧形態論情報

「前文脈・キー・後文脈・語彙素読み・語彙素・語彙素細分類・語形・品詞・活用例・活用形・書字形・発音形・出現形・語種・原文文字列」から表示したい情報を選択。

⑨コーパス情報

「サンプルID・連番・レジスター・コア・固定長・可変長」から表示したい情報を選択。

⑩出典情報

「執筆者・生年代・性別・ジャンル・書名／出典・副題／分類・巻号・編筆者等・出版者・出版年」から表示したい情報を選択。

「中納言」は3つのサブコーパス、すなわち、書籍・新聞・雑誌が含まれている生産実態(出版)サブコーパス、図書館の蔵書が含まれている流通実態(図書館)サブコーパス、白書・議事録・インターネット資料などが含まれている非母集団(特定目的)サブコーパスで構築されている。本研究では、母集団(生産実態(出版)サブコーパス、流通実態(図書館)



図1 「中納言」の構成(中納言のホームページより)

サブコーパス)及び非母集団(特定目的)サブコーパス)のデータをすべて調べ上げ、その合計を複合動詞「思い出す」の出現頻度として記録する。

母集団を検索する際、「出版・新聞、雑誌、書籍、図書館・書籍」を、非母集団を検索する際、「特定目的・白書、ベストセラー・知恵袋、ブログ・法律、国会会議録・広報誌・教科書・韻文」を選択する。

それぞれの複合動詞を「中納言」で検索した結果に基づいて、出現頻度の高い順に並べ替えた。また、検索結果として各複合動詞が含まれている例文をエクセルに記録し、複合動詞のコロケーションを考察した。

5. 結果と分析

BCCWJの中納言による調査結果から、出現頻度1位から50位までの複合動詞を選び出した。それぞれの複合動詞と共起する助詞の中で最も多く出現する助詞とそれに関連する語句を下記の表1に示す。

表1 中納言で調査した結果、出現頻度が最も高かった複合動詞50語

固定長順位	複合動詞	助詞	助詞の数	共起する語句(回数)	具体例
1	繰り返す	を	698	こと(52)	
2	思い出す	を	777	こと(243)	
3	見付ける	を	950	【人名】(43)	
4	見詰める	を	786	【人名】(149)	
5	出掛ける	に	418	動詞「ます」+(51)	食べに
6	取り組む	に	414	～問題(24), 問題(14)	
7	受け入れる	を	342	それ(25)	
8	出会う	に	348	【人名】(28)	
9	立ちあがる	は	150	【人名】(94)	
10	取り上げる	を	361	問題(26)	
11	受け取る	を	402	それ(26)	
12	振り返る	を	331	ほう(26), 後ろ(26)	
13	落ち付く	が	89	心(15)	
14	取り出す	を	493	煙草(15)	
15	し払う	を	261	円(28)	
16	生み出す	を	419	利益(9)	
17	見成す	と	565	もの(80), 動詞る形(83)	
18	引き続く	に	160	～年度(32); 前年度(30)	
19	引っ張る	を	238	足(27)	
20	作り出す	を	353	もの(14), 状況(14)	
21	付き合う	と	149	【人名】(29)	

22	取り入れる	を	230	技術(7)	
23	飛び出す	が	95	【人名】(9)	
24	申しあげる	を	86	お礼(48)	
25	結び付く	に	144	こと(4)	
26	飛び込む	に	241	目(32)	
26	話し合う	と	79	【人名】(10)	
28	引き上げる	に	108	場所(10)	
29	取り戻す	を	350	落ち着き(25)	
30	引き起こす	を	298	病名(44)	ガン, 脳卒 中
31	引き出す	を	241	仕事(7)	
32	出来上がる	が	177	もの(10)	
33	見上げる	を	296	【人名】(54), 空(45)	
34	受け止める	を	85	それ(12)	
35	成り立つ	が	104	関係(6)	
36	組み合わせる	を	239	名詞+など/等(12)	人参, 春菊, 大根など
37	引き受ける	を	166	仕事(13)	
38	追い掛ける	を	164	後(20)	
39	見掛ける	を	131	動詞+(20)	歩いている の
40	持ち込む	に/ を	127/99	場所(7)/話(7)	
41	差し出す	を	192	手(35)	
42	乗り込む	に	206	車(25)	
43	思い切る	は	50	【人名】(15)	
44	取り付ける	を	145	約束(8), 合意(6), 支持(6)	
45	見守る	を	146	動詞+(17)	子供たちが 遊ぶの
46	作り上げる	を	187	システム(8), もの(6), 世界(6)	
47	仕上げる	に	86	もの(4)/作品(4)/形(4)	
47	巻き込む	に	166	事件(17)	
49	呼び掛ける	を	91	参加(12)	
50	押し付ける	を	131	顔(9)	

砂川(2014)では、コーパスを活用した類似表現に関する調査法としてレキシカルプロファイリングを活用した実質語の調査法を紹介した。レキシカルプロファイリングとは、コーパスを利用して語の共起関係や文法的な振る舞いなどを調査した情報を蓄積し、その結果を統計的に処理した上で、その語の特徴的な振る舞いを提示するものである(砂川(2014:9))。本研究もBCCWJの中納言という大規模なコーパスを利用して、出現頻度の高い複合動詞の共起関係を調査した。

例えば、出現頻度1位の「繰り返す」も2位の「思い出す」も助詞「を」と最も共

起しやすいということが判明した。また、「こと」という言葉はこれらの複合動詞と一緒に使用される場合が多いことがわかった。もちろん、一つの複合動詞に共起できる助詞や語句はたくさんあるが、日本語学習者の負担を軽減するため、最初はすべてを学ぶ必要がないのではないだろうか。むしろその中でよく使われるパターンを一つか二つ覚えさえすれば、もう少し楽に学習できると考えられる。また、6位の「取り組む」の場合、「問題に取り組む」という形で現れることが多い。実際、「〇〇」に取り組むの「〇〇」を調べた結果、次のようなコロケーションがある(紙面の都合で一部のみ掲載する)。

「～作り」に取り組む(17)

「～化」に取り組む(12)

「～活動」に取り組む(11)

「～課題」に取り組む(9)

「～改革」に取り組む(9)

「～開発」に取り組む(6)

「～育成」に取り組む(6)

「～課題」に取り組む(4)

「～の運動」に取り組む(3)

「～の事業」に取り組む(2)

「～解決」に取り組む(2)

上記のく「〇〇」に取り組むの「〇〇」に入るものとしてはさまざまな可能性があるが、コーパスからは「問題」という一番多い使い方が提示されたので、学習者にとって複合動詞を学習する際、優先的に学習したほうがよい使い方ではないかと考えられる。このようにコーパスから得られたコロケーションの情報を利用して、習得に難しいと思われる複合動詞において習得の優先順位を決めることは、複合動詞の習得問題を解決するための方法の一つになる。

6. 今後の課題

本研究では、大規模コーパスを通して現代日本語複合動詞の使用について調査を行い、複合動詞のコロケーションを示すことができた。今後はこれらのコロケーションを生かし、日本語母語話者なら誰でもよく使う複合動詞を優先的に導入することを目指したシラバスや教材を、引き続き開発していきたい。

注：固定長はランダムに選んだ文字を基準として、1,000文字を抽出するサンプルである。

この1,000文字は、句読点や符号は含まず数える。サンプルの先頭や末尾は文の途中になるが、検索の際に文脈がきちんと表示されるように、入力は一単位で行う。また、数える対象にはしない句読点や符号もそのまま入力する。抽出比が正確であることから語彙調査、文字調査などの統計的分析に向いている。(BCCWJのサンプリングのホームページ【固定長サンプル】

<http://www.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/sampling.html>より)

【参考文献】

- 石井正彦(2007)『現代日本語の複合語形成論』東京：ひつじ書房
- 何志明(2012)「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』及び中上級日本語教科書における複合動詞の出現頻度」『日本語 / 日本語教育研究』vol. 3, pp. 261-276. 東京：日本語 / 日本語教育研究会
- 何志明(2014)「日本語母語話者はどのような複合動詞をよく使用しているか—大規模コーパスと国語教科書の調査結果を通して—」『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』, pp. 309-314. 東京：公益社団法人日本語教育学会
- 砂川有里子(2010)「コーパスを活用した日本語教育研究」砂川有里子・加納千恵子・一三朋子ほか(編著)『日本語教育研究への招待』, pp. 99-119. 東京：くろしお出版
- 砂川有里子(2014)「コーパスを活用した日本語教師のための類似表現調査法」『日本語 / 日本語教育研究』vol. 5, pp. 7-27. 東京：日本語 / 日本語教育研究会
- 松田文子(2004)『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して—』東京：ひつじ書房

Acknowledgment

This research is supported by the “General Research Fund for 2011/2012”, Research Grants Council, Hong Kong (Project title: “The Usage of Japanese Compound Verbs”, Project code: 445811).

韓國日本語學會
第30回 國際學術發表大會 論文集
Proceedings of the 30th General Meeting of the JLAK

2014년 9월 20일 발행

편집·발행 : 한국일본어학회

110-791 서울시 종로구 대학로86
한국방송통신대학교 일본학과 이경수교수 연구실
(사무국 : 010-2054-6576)

jlak123@hanmail.net
<http://www.jlak.or.kr/> <http://cafe.daum.net/jlak>